

タイトル	Googleを活用した英語の用例検索 : 事例研究
著者	上野, 誠治
引用	北海学園大学人文論集, 39: 155-174
発行日	2008-03-00

Google を活用した英語の用例検索

— 事例研究 —

上 野 誠 治

0. はじめに

本稿では、世界的に有名な検索エンジンである Google を利用した用例検索の実例を紹介すると共に、取り上げた表現または構文について考察する。ある用例の意味や用法を調べる際、以前であれば辞書や文法書に当たることがまず求められるが、それは当然のことながら辞書や文法書に載っている用例に限られてしまう。しかし、現実にはテキストなどを読んでいるときに遭遇する用例の中には、辞書や文法書には載っていないが、一種の慣用的な表現として定着しているものも少なくはない。そのような場合に、前後の文脈からおおよその意味の見当はついて、その表現がどれほど一般的なものなのか、慣用的な表現なのかどうか、については判断が難しい場合も多い。

そのようなときに、有用なのが Google 検索である。この検索エンジンを利用すると、インターネット上のさまざまなデータを検索対象にして、実際の使用例を検索することができる。ただし、注意しないといけないのは、ヒットした用例が必ずしも正しい使い方をしていないとは限らない点である。インターネット上にデータを提供している者がすべて正しい表現を使っているわけではないからである。文法的無知から誤用表現を平気で使っている場合もあれば、十分な推敲を加えていないためにうっかり間違った表現を書き込んでしまうこともあるだろう。また、近年はブログ¹

¹ 「個人や数人のグループで運営され、日々更新される日記的な Web サイトの

(Blog)を利用する者が急増しているために、口語的な表現も多く含まれている点は留意しなければならない。

しかし、以上の点を踏まえて検索をすると、インターネット上には無限ともいえるほどの莫大なデータが溢れていて、用例には事欠かない。以下の節では、日頃目にしたいいくつかの表現または構文、しかもどちらかというところマイナーな表現に焦点を当て、その意味や用法を探っていきたい。

図1は実際の検索例で、後述の what better way to という表現を調べたものである。右上の方に「"what better way to"の検索結果 約2,240,000件中1-10件目(0.20秒)」と表示されていることから、この表現を含む用例が200万件以上あることがわかる。これをヒット件数と呼ぶ。また、画

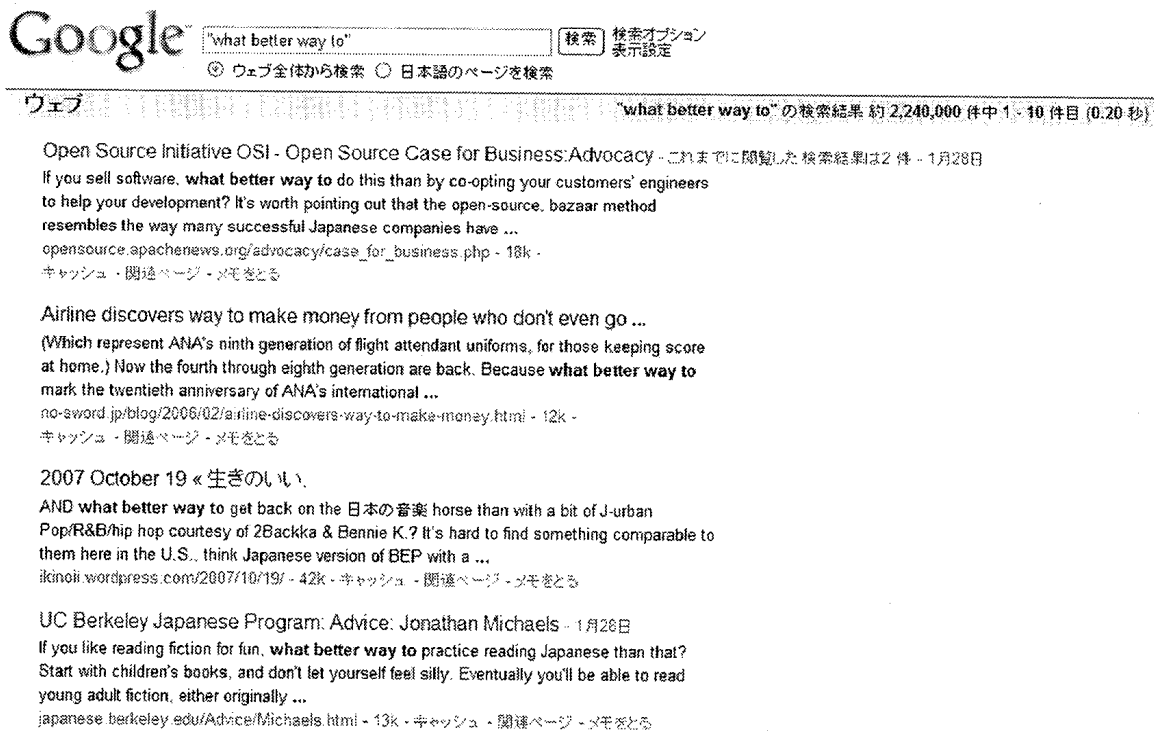


図1 Google 検索の画面例

総称。内容としては時事ニュースや専門的トピックスに関して自らの専門や立場に根ざした分析や意見を表明したり、他のサイトの著者と議論したりする形式が多く、従来からある単なる日記サイト(著者の行動記録や身辺雑記)とは区別されることが多い。」(IT用語辞典 <http://e-words.jp/>参照)

面では問題の表現を含む数行が表示されるに過ぎないが、それぞれの1行目をクリックすると元のホームページを見ることができ、前後関係、ホームページの特徴や性格などもわかる。また、それぞれの最後の行に「キャッシュ」という項目があるが、ここをクリックすると Google に保存されている当該のページが表示され、同時に検索の対象とした部分が黄色でハイライトされるので、これを利用すると問題の表現を見つけ出すのが容易になる。

なお、以下の節で特に出典が明記されていない用例はいずれも、Google による検索例である。出典 (アドレス) を明記しなかった理由は、一つには煩瑣を避けるためであるが、もう一つには当該のアドレスが非常に複雑な場合が多いため、それを頼りに用例を追跡するのが困難であると思われるからである。用例が示されているホームページにたどり着きたい場合には、用例の全体あるいは一部をフレーズ検索するのが早道と思われる²。ただし、元のページが削除されてしまっている場合には追跡不能の場合もあるかもしれない。その場合、一定期間、データ自体はキャッシュされているので、それを利用することも可能である。

本稿で取り上げる表現または構文は以下の通りである。

第1節 What better way to do ... ?

第2節 As good or better than ...

第3節 A certain I don't know what

第4節 True patriot love in all thy sons command

1. What better way to do ... ?

この節では、(1)の斜体字部分にあるような表現について考察する。

² 注3参照。

- (1) The fact that we tend to work for long hours and as a result value our free time more is also undoubtedly a factor. The desire to make the absolute maximum use of our time when we finally manage to escape from the office for a few days is entirely understandable. *What better way to reduce stress and forget all about work than to indulge in some extreme sports?*

(*italics is mine*) (Barton et al. 2007: 33)

この表現は疑問詞を含む表現 *what better way* に *to* 不定詞が後続する形を取っているが、主文の主語と時制を持つ動詞が欠けている。他方、動詞 *reduce* と *forget* は *to* に導かれて *to* 不定詞句を構成し *way* を形容詞的に修飾している。主文の動詞は基本的には時制を持たなくてはならないが、この表現にはそれが見あたらない。したがって考えられるのは、この表現が一定の慣用的な言い回しではないか、ということである。もしそうだとすると、同じような語構成で他にも用例があるはずである。そこで、Google を使い、*"what better way to"* で検索すると 2,240,000 件ヒットする³。その一部を下に列挙する。

- (2) If you sell software, what better way to do this than by co-opting your customers' engineers to help your development?
- (3) If you like reading fiction for fun, what better way to practice reading Japanese than that?

³ 単に *what better way to* と入力し検索すると AND 検索となり、これらの単語すべてが含まれるページが検索対象となる。その場合のヒット件数は、61,700,000 件である。一方、本文に示したように、検索する表現を二重引用符で囲むとフレーズ指定となり、その語順で書かれているページが検索対象となる。なお、Google では、大文字と小文字の区別はない。その他、Google 検索のテクニックについては安藤 (2003: 9-19) 参照。

- (4) What Better Way to Get Rid of Old Explosives?
- (5) What better way to extend your brand than to create specialized body art programs?
- (6) Better time-management will surely be at the top of many lists, and what better way to tackle that task than with a new watch.

what better way to のヒット件数がこれだけ多いことから、この表現が比較的一般的なものであることがわかる。

次に、この表現には時制を持った動詞が見あたらないが、そのような動詞があってはならないのか、それとも出現することもあるのかを調査してみる。意味から考えると、is there などが省略されていると予想されるが、それを “what better way to * is there” で検索してみると、387,000 件がヒットする⁴。数字の上では、is there がない方が用例としては多いことがわかる。

- (7) Next to reorientation to the primary norm of religious experience, what better way to understand religions is there than to study the notions and practices of others?
- (8) And what better way to celebrate is there than with running?
- (9) After a full day of shopping, what better way to relax is there than at one of the area’s more than 2300 restaurants.
- (10) And honestly, what better way to learn is there?

さらに、“what better way to * can there be” で検索すると 4,420 件ヒットするが、is there に比べるとかなり用例は少なくなることがわかる。

⁴ *はワイルドカード。

- (11) What better way to help struggling writers can there be than using graphic organizers?
- (12) Over and over again we have seen how much the children without special needs have loved learning how to sign as well—and what better way to break down communication barriers can there be?

ところが興味深いことに、can を will に換えて“what better way to * will there be”で検索すると、ヒット件数はゼロとなる。単なる偶然なのか、助動詞 will が容認されない明確な理由があるのかどうかは、今後の研究課題であるが、この表現が「よりよい方法があるだろうか→ない」といった反語表現であることが助動詞選択の要因の一つになっていると思われる。

以上のことから、what better way to ... は比較的一般的な表現であり、主文に時制を持つ動詞を欠いた状態で使用される事が多いが、is there や can there be などを伴うこともあることがわかった。さらに、“what best way to” や “what worse way to”, “what cleverer way to” などで検索すると、用例はあるがヒット件数は格段に落ちる。これらの表現がどの程度容認されるのかは不明であるが、ヒット件数が少ないことから判断すると、これらは what better way to ... の亜種といえる。

2. As good or better than...

本節では(13)の中で斜体字になっている表現 *as good, or better, than* に焦点を当てることにする。ここではカンマが2個所で用いられているが、ここではその有無に関しては無視して考察する。

- (13) Although predicted for many years, the paperless office remains a myth. While most people agree that a paperless office would reduce clutter in the office and also reduce the strain on the environment, people show a great reluctance to stop using paper.

This is because paper is very easy to use, especially when working on collaborative tasks. Until a technology that is *as good, or better, than* paper is invented, paper use will remain prevalent and the paperless office a dream.

(*italics* is mine) (Barton et al. 2007: 50)

まず、この表現において、*better* は比較級であることから *than* と結びつくことが考えられる。また、最初の *as good* には省略されている *as* が結びつくことと予想される。この *as* は(14)に示されるように *as* 以下が自明の場合には省略されることがある。

(14) The first movie was exciting, but the second was not as good (*as the first*). (江川 2003: 169)

したがって、*as good* には意味的に *as paper* が後続すると考えてよいであろう。以上のことから、問題の表現は、*as good as paper* と *better than paper* の2種類の構文が合体してできたものと考えられ、(15)に示されるように等位接続詞 *or* がそれらをつないでいるのである。しかし、もしそうならば、共通項である *paper* を取り出して(16)のような表現であって然るべきと思われ、実際に Google で検索するとその用例も見つかる。

(15) “as good as paper” or “better than paper”

(16) as good as or better than paper

Google で “as good as or better than” を対象に検索すると、126,000 件ヒットする。実例は以下の通り。

(17) This mic preamp is as good as or better than you find in many larger consoles ...

- (18) They all found the shorter classes were as good as or better than traditional-length classes, and found the materials interesting and useful.
- (19) We have upgraded our Building Regulations, to improve the energy efficiency of new buildings to a level as good as, or better than, is found elsewhere in Europe.
- (20) There are now thousands of podcasts to choose from, covering every conceivable subject, and many of them are as good as (or better than) many big-budget radio shows.

用例を見ていくと as good as or better than の形式のものが多いが、(19)にあるようにカンマを用いる場合や(20)のようにカッコを用いる場合もあるようである。

次に、考察の出発点となった(13)の中に出てくる as good, or better than という表現についてさらに考察を進める。一つの可能性として、本来(16)のような表現をとるべき所で2番目の as が省略されてしまったことが考えられる。もしそうであるならば、問題の表現は誤用とされるべきであるが、実際に Google 検索によって “as good or better than” を対象にどのくらいのヒット件数があるのかを調査してみると 295,000 件がヒットした。

- (21) It is very rare to find a sequel as good or better than the 1st film.
- (22) Lesser known wines may be just as good or better than the more expensive “name” brands.
- (23) Unless a breeder is constantly aware of how many eggs his birds are producing he cannot know whether or not each generation is as good or better than the last.

したがって、問題の表現は誤用の可能性があるものの、実際には相当数の

使用例があることから、ある程度一般的な表現になっていると考えられる。

なお、あるウェブサイト (<http://www.eisu2.bham.ac.uk/johnstf/revis044.htm>) では(24)の(a)には same と共に用いられる前置詞が欠けているので(b)のように as を挿入すべきであるという主旨のことが述べられている。

- (24) a. ... patients who reported that their asthma was the same or worse than before
b. ... patients who reported that their asthma was the same as, or worse than, before

また、それと関連して、われわれが主張するように本来は 2 番目の as を省略しない(25)が正用法であるが、実際には *The Times* などの高級紙にも(26)のような用例、すなわち上記(21)－(23)に類する例が見つかるとしている。

- (25) a. Payne is doing as well as or better than any could.
b. In most other respects the flywheel performs as well as, or better than, lead-acid batteries ...
c. All men need to be proving themselves to themselves in terms of being as good as or better than the next fellow.
- (26) a. But, all in all, the economy is performing as well, or better, than it has in many a year.
b. More seriously, Hawaii had tropical locations as good or better than less accessible alternatives.
c. As Charlie Scott said the other day, the morale at the other places is equal or better than before this happened.

以上のことから、*as good, or better, than* もしくは *as good or better than* は本来的には誤用法であり、*as good as or better than* となるべき所であるが、Google 検索によるヒット件数で比較してみても、既述の通り、前者が 295,000 件であるのに対して後者は 126,000 件である。また、高級紙にも見られるという指摘もあることを考慮すると、問題の表現は一定程度広く使われ、また認知されていることがわかる。使うべきか、使わざるべきかのせめぎ合いは今しばらく続くものと思われる。

3. A certain I don't know what

本節では、(27)の中に出てくる *She has a certain I don't know what*. という表現について考察する。この文は、もともと一部分にフランス語からの借用語を用いた *She has a certain je ne sais quoi*. を平易な英語に書き換えたものである。

(27) *She has a certain je ne sais quoi*.

Perhaps it is a *joie de vivre* or an understanding of *la dolce vita*.

Can you understand the prose above? It is made up in part of loanword expressions frequently found in English. If we rewrite it in plain English, it looks something like this.

She has a certain I don't know what.

Perhaps it is a love of life or an understanding of the good life.

(ellipsis added) (Clankie et al. 2007: 101)

通常、*certain* は形容詞であるから、その直後にある人称代名詞 *I* を修飾することはできない。もう一つ、*certain* が代名詞で後続の関係節の先行詞である可能性もあるかもしれない。しかし、その場合、*know* の目的語に *what*

があるために、目的格の関係代名詞が省略されているとは考えにくい。ちなみに、付属している訳例では「彼女には何かがある、それが何であるか私にはわからないが」とある。この訳が正しいとすると、*certain* は代名詞的なもの(「何か」)であり、それに続けて話者のコメント(「それが何であるか私にはわからないが」)が付けられていると解釈しているように思われる。しかし、それならば、*I don't know what* の直前にダッシュあるいはコロンなどがあって然るべきである。しかし、問題の表現にそのようなものはない。

そこで、まずこの表現が英語の表現として存在するかどうかを検証するために、Google で “a certain I don't know what” で検索してみたところ、27,100 件ヒットした。

- (28) Well-known British political opportunist and tabloid academic Michael Portillo has always possessed a certain I don't know what.
- (29) These lines amount to saying: Besides the fact that these creatures wound me with the thousand graceful things they explain about you, there is a certain “I-don't-know-what” that one feels is yet to be said, something unknown still to be spoken, and a sublime trace of God as yet uninvestigated but revealed to the soul, a lofty understanding of God that cannot be put into words.
- (30) I would say Squirrelly Dozen... It avoids the whole fur motif entirely... though Dicing Dozen has a certain, I don't know what.
- (31) You lack a certain “I don't know what”
- (32) For most of us, anchovies are just a punchline involving pizza and truly, truly disgusting, but they do have a nice, salty, robust flavor that adds a certain I-don't-know-what (translation: *je ne sais quoi*) to a dish.
- (33) It possesses what the French call a certain “I don't know what”

that is hard to describe in mere words ...

- (34) Although I will admit that for some reason (as Ernest would say in English: A certain I don't know what) some classical music AAC's encoded with iTunes at 192 kbps sounded at times a tad better than MP3's ripped with iTunes at the aforementioned settings.
- (35) If you think this tutorial sucks or lacks a certain ... I don't know what, register for our wiki and make it better.
- (36) What a great talent he is. It's wild, because when I'm working with him, there's a certain energy, there's a certain ... I don't know what's going to happen.

用例は実に様々である。まとめると以下のような使い方があるようである。

- (37) a. a certain I don't know what: (28) (34)
b. a certain "I-don't-know-what": (29)
c. a certain, I don't know what: (30)
d. a certain "I don't know what": (31) (33)
e. a certain I-don't-know-what: (32)
f. a certain ... I don't know what: (35) (36)

(37)でパターンが網羅されてはいないかもしれないが、典型的な特徴として(a)を除き I don't know what の部分に引用符が付いていたり、ハイフンで連結されている点が挙げられるだろう。それは、(32)や(34)で述べられているように、その部分がまさにフランス語の表現 *je ne sais quoi* の英語翻訳だからであると考えられる。したがって、I don't know what は単なる文として使われているのではなく、形容詞 certain によって修飾される名詞表現、すなわち名詞句と考えるべきである。

ただし、(37)の(c, f)では a certain と I don't know what がカンマある

いはピリオドの連続 (...) によって分断されているので, a certain は名詞句と解釈されるかもしれない。しかし, (36)から明らかなように, 最初は there's a certain energy と言い, その直後で energy に代わることを探すように there's a certain ... と言いかけて, 結局適切な言葉が見つからず, I don't know what's going to happen. と続けているようにも思われる。この場合, certain はやはり形容詞であろう。もしそうであるならば, (37)の(c, f)は問題の表現の比較的初期段階の表現形式である可能性があると思われる。以上のことから, この表現の発達を図示すると以下のようなと思われる。

- (38) a. a certain ... I don't know what
- b. a certain, I don't know what
- c. a certain "I don't know what"
- d. a certain "I-don't-know-what"
- e. a certain I-don't-know-what
- f. a certain I don't know what



なお, a certain とほぼ同じ意味を持つ some を使った用例があるかどうかを Google 検索で調べると予想通り, 以下のような用例が見つかった。

- (39) It is pretty obvious what the name is supposed to be but some I don't know what to name them.
- (40) Is he working for her, or is he working for the FBI or for some - I don't know what....
- (41) Sure it isn't common, I know that, but some I-don't-know-what-a-computer-is person might put a picture on the web using a non-standard format and if someone does that it will work.

(39)は some と I don't know what が連続しているのに対して, (40)では

some と I don't know what がハイフンで分断されている⁵。また、(41)では、some と person の間に I-don't-know-what-a-computer-is をハイフンでつながれた1語の形容詞のように差し込み、「コンピュータがどういうものかわからないようなある人 (some person who doesn't know what a computer is)」のような意味で使われていると思われる。この場合、動詞 know の主語として I はおかしいはずだが、ハイフンでつながれていることからわかるように、一種の慣用表現になっている点が、興味深い。

本節の結論として、certain は本来形容詞であり、その直後にくる名詞表現がすぐに思い浮かばないとき、I don't know what と続けた。それが、「語順の圧力」で、I don't know what の部分が徐々に名詞句的な機能を持つに至り、形容詞 certain の被修飾語の地位を得たと考えたい。さらにそれが形容詞に転換されたのが(41)における表現である。もし、それが形容詞的な機能を持つようになったとすれば、something のような代名詞に後続する可能性もあるはずだが、実際、次のような用例が見つかる。

(42) Last night I dreamed that I was in prison for something I don't know what reason.

(42)における I don't know what reason は形容詞的な機能を持つと考えられる。また、(43)では同じ I don't know what が(41)の場合と同様に、形容詞的に使われており、名詞 reason を修飾している⁶。

(43) We wanted to turn on a radio so we could find out what was happening but we were ordered that turning on any radio was strictly prohibited for some I-don't-know-what reason.

⁵ 原文ではハイフンになっているように見えるが、本来はダッシュであろうと思われる。

⁶ I don't know what におけるハイフンの有無は無視して考える。

まとめると、以下のようになる。

- (44) a. a certain I don't know what における下線部は名詞的
b. some I don't know what reason における下線部は形容詞的
c. something I don't know what reason における下線部は形容詞的

4. True patriot love in all thy son's command

最後に本節では、カナダの国歌である O Canada の中の 3 行目の表現について考察する。

(45) O Canada!

Our home and native land!

True patriot love in all thy sons command.

With glowing hearts we see thee rise,

The True North strong and free!

From far and wide,

O Canada, we stand on guard for thee.

God keep our land glorious and free!

O Canada, we stand on guard for thee.

O Canada, we stand on guard for thee.

問題の箇所は True patriot love in all thy sons command であるが、行末の command の品詞は何であろうか。この一行を構成する構成素は true patriot love, in all thy sons と command の 3 つであると思われる。最初の 2 つはそれぞれ名詞句と前置詞句である。音だけを頼りにすると in all thy son's command もしくは in all thy sons' command という可能性も考えられるが、歌詞にはそのようなアポストロフィは存在しない。したがって、command は名詞とは考えられない。なぜなら、直前の sons という名

詞に *command* という名詞が連続しているとすれば、複合語でない限り、名詞 *command* は格 (Case) を持ち得ず、格フィルターに抵触してしまうからである。また、Pierson and Cohen (1995) に次のような一節があり、そこでは *all thy sons* を *all of us* で置き換える可能性が述べられている。*all of us command* が構成素を成すとは考えられないので、同様に *all thy sons command* も構成素を成さないと考えて良いと思われる。

- (46) In the Canadian national anthem, for instance, the offending phrase “in all thy sons command” could be reformulated simply as “in all of us command.” (Pierson and Cohen 1995: 174)

残る可能性は動詞としての *command* である。その場合、その目的語は *true patriot love* であると思われる。実際、Google で “*command true patriot love*” という本来の語順である (S)VO で検索すると7件ヒットした。特殊な語の組み合わせであるのでヒット件数が少ないと思われるが、以下の例が示すように、*command* は動詞で、*true patriot love* がその目的語であることは明らかである。歌詞の中で動詞 *command* が行末にあるのは、それが韻文であり2行目の行末にある *land* と脚韻を踏むためであると思われる。

- (47) For more than 70 years now, English-speaking Canadians have been mindlessly asking in song that their country command true patriot love “in all thy sons,” but not its daughters.
- (48) How stands our home and native land, *terre de nos aieux*?
Is her brow girded with garlands glorious? Does she command true patriot love in all her sons and daughters?
- (49) Canadian women have an equal desire to command “true patriot love” for our country, and to share in our national pride.
- (50) “We want all Canadians to have the opportunity to command ‘true

patriot love' when they sing the national anthem on Canada Day and throughout the year.”

次に、この動詞 *command* の主語は何であろうか。(47), (48) の例においては、主語は明らかに *their country* であり、*our home and native land* を受ける代名詞の *she* である。一方、(49) では、コントロール構文であるので、動詞 *command* の主語は *Canadian women* である。同様に (50) では、*command* の意味上の主語は *all Canadians* ある。前者の場合の意味は「国が愛国心を命じる」であり、後者では「カナダ人女性（あるいはすべてのカナダ人）が国のために愛国心を発揮する」というような意味になると思われる⁷。なお、シェイクスピアは *Love's Labour's Lost* の中で、*command* を前者の意味で用いている。

(51) I am the king; for so stands the comparison: thou the beggar; for so witnesseth thy lowliness. *Shall I command thy love?* I may: shall I enforce thy love? I could: shall I entreat thy love? I will.
(*italics is mine*) (Act 4, Scene 1)

(この比喩をもってすれば、余は王にして、そなたは乞食女なり。そなたの身分、賤しければ。されば、余は、そなたに愛を命ずべきか？ そも、よからん。愛を強要すべきか？ しか、し得べし。愛を懇願すべきか？ しか、せんと欲す。)⁸

さらに、あるホームページではカナダ国歌の解説として次のように述べられている⁹。

⁷ 辞書に載っている意味では、「自由に操る、意のままにする」に近いと思われる。

⁸ 和田勇一(訳)『シェイクスピア全集 喜劇 I』筑摩書房、1982年。

⁹ 最初の行は、the line is “true patriot love in all thy sons command,” のように二重引用符を補うとわかりやすい。なお、本文で既に触れたことである

- (52) N. B.: the line is true patriot love in all thy sons command, with no possessive apostrophe; otherwise put, “command (inspire) true patriot love in all thy sons”. Also, the first word is “O” (used as a vocative, to apostrophize Canada), not the exclamation “oh”.

(<http://history.travellerspoint.com/co/37/>)

ここでは、command が inspire で置き換えられている点に注目したい。この inspire を使った類似の表現としては、次のようなものがある。この中の前置詞句 in one's pupils がカナダ国歌の in all thy sons に対応することは明白である。

- (53) a. inspire in one's pupils a love for right conduct

生徒に正しい行為を好む心を抱かせる

- b. inspire a deeper love for our world

私たちの世界 [地球] をもっと深く愛する気持ちを起こさせる

(市川 1995 : 1474)

カナダ国歌の場合に話を戻すと、その3行目の動詞 command の主語に当たる表現が見あたらない。したがって、この command は命令形であると考えられる。訴えかけている相手は、1行目、2行目の Canada であり Our home and native land である。そうすると、この箇所の解釈は大まかに言って、「我が母国であるカナダよ、我らに真の愛国心を命ぜよ(起こさせよ)」となると思われる。そして、そう命ぜられた国民は愛国心を発揮する(自らの内に起こさせる)ことになるのである。

最後に、カナダ大使館のホームページに掲載されている歌詞の翻訳例を見ることにする。冒頭の部分のみ提示する。

が、ここからも本来、所有格のアポストロフィが sons にはないということがわかる。

(54) おお、カナダよ！

われらが故郷，われらが祖国！

汝の子すべての中に流れる

真の愛国心

輝ける心をもって

興隆する祖国を見守らん

(以下省略)

(http://www.canadanet.or.jp/about/faq_anthem.shtml)

問題の箇所は、「汝の子すべての中に流れる／真の愛国心」と訳されている。この訳には、「(参考訳：カナダ大使館広報文化部)」と付されているので正確な訳ではないのかもしれないが、以上の考察を踏まえると、原文と訳文にはかなりの乖離があると考えざるを得ない。

5. ま と め

本稿では、4つの表現または構文を取り上げて考察した。その際に利用したのが、Google 検索である。インターネット上のデータは玉石混淆であるので取り扱いに注意する必要があるが、一方で相当数のヒット件数が得られれば、それだけ多くの人が使用している証拠となる。もちろん、中には誤用と知らずに使われている用例もあるだろうが、仮に誤用あるいはことばの乱れであっても、それだけ広く使われているという実態をかいま見る機会にもなると思われる。本稿で取り上げた表現はいずれも、ほとんど辞書や文法書などでは触れられていないものばかりである。意味はおおよそ見当がつくが、果たしてどの程度一般的な表現なのかどうか、英語の非母語話者にはなかなかわからない。しかし、Google 検索によって得られる多様な用例を詳細に検討していくことによって得られる情報には計り知れないものがあると思われる。

第1節では、What better way to do ...? という表現が、時制を持つ動詞

なしに使用される慣用表現の一種であることを見た。同時に、is there や can there be を補うことも可能ではあるが、will there be とは共起しない点にも言及した。第2節では、As good or better than ... に関して、本来は As good as or better than... のように as が必要とされる表現であるが、それを欠いた用例が広く見られることから、一定程度容認される表現になっていることを見た。第3節では、A certain I don't know what において、certain は形容詞であり、後続する I don't know what はその被修飾語的な構成素になっていることを論じた。また、その仮説を支持するものとして、some や something を用いた類例にも言及した。第4節では、カナダ国歌の歌詞の中で使用されている command という単語に焦点を当て、それが他動詞であり、またそれを含む一行が命令文であることを確認した。

参考文献

- 安藤 進 (2003) 『翻訳に役立つ Google 活用テクニック』丸善株式会社。
- Barton, John and Anthony Sellick and Norio Shimamura (2007) *Knowledge in the Making*. Seibido.
- Clankie, Shawn M. and Toshihiko Kobayashi (2007) *Language and Our World*. Sanshusha.
- 江川泰一郎 (2003) 『英文法解説』改訂三版。金子書房。
- 市川繁治郎 (1995) 『新編 英和活用大辞典』。研究社。
- Pierson, Ruth R. and Marjorie Griffin Cohen (1995), *Canadian Women's Issues: Bold Visions*. James Lorimer & Co.